

ねん がつ にち
2024年5月26日

さん み いったい しゅじつ
三位一体の主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

さん み いったい しゅじつ
三位一体の主日のミサのはじめに唱えられる 集会祈願は、せい ちち
「聖なる父よ、あなたは、み
ことばとせいれい よ つか かみ
と聖霊を世に遣わし、神のいのちの神秘を示してくださいました」と始まりま

すなわち、かみ しんび ちち こ せいれい さん み ちち
神のいのちの神秘は、父と子と聖霊の三位のいずれかのみにあるのではなく、父
と子と聖霊に等しくあり、それぞれ等しく唯一の神であることが明らかに示されていま
す。かみ しんび さん み いったい しんび あらわ
神のいのちの神秘は、三位一体の神秘のうちに現されます。だからこそわたしたち
は、ちち こ せいれい みな せんれい さず
父と子と聖霊の御名によって、洗礼を授けられます。わたしたちキリスト者の信仰
が、さん み いったい しんび もと ほか
三位一体の神秘に基づいているからに他なりません。

し せい さん み いったい しんび しゃ しんこう せいかつ ちゅうしんてき しんび しんこう
「至聖なる三位一体の神秘は、キリスト者の信仰と生活の中心的神秘です。・・・信仰
ほか しんび みなもと て ひかり きょうかい しる
の他のすべての神秘の源、それらを照らす光なのです」と教会のカテキズムには記
されています。(234)

おんちち にんげん はな とお ぞんざい きび さば あた ぼつ ぞんざい
御父は、人間からかけ離れた遠い存在ではなく、また厳しく裁きを与え罰する存在では
ないことを、パウロはローマのきょうかい て かみ ひと どれい ふたた おそ おとしい れい
教会への手紙に、「人を奴隷として再び恐れに陥れる霊
ではなく、かみ こ れい う
神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッバ、ちち
よ』と呼ぶのです」と記しておしる せいれい みちび おん こ おな
記して教えます。わたしたちは聖霊の導きによって、御子と同じ
ようにおんちち うえ した かん もの いちぶ う つ もの
御父をこの上なく親しく感じる者とされ、その一部ではなくすべてを受け継ぐ者
と見なされるのだと、きょうどう そうぞくにん ことば つか きょうちよう
「キリストと共同の相続人」という言葉を使ってパウロは強調
しています。

ふくいん さん み いったい まじ い しゅ がた
マタイ福音は、三位一体の交わりのうちに生かされているわたしたちに、主は、「あなた方
は行って、すべてのたみをわたしの弟子にしなさい。かれらにちち こ せいれい な せんれい
彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼
をさずけ」るようにとめい したる
命じたと記します。すなわちわたしたちは、ぜんせかい ひと さん み いったい
全世界の人を三位一体
の神秘における交わりに招くように、遣わされています。わたしたちは自分の心 じん ころ おも
の思い
や自分のしんこうりかい こくち もの さん み いったい かみ つ ししゃ
信仰理解を告知する者ではなくて、三位一体の神を告げる使者であります。

わたしたちは、日本だけ単独で生きているのではなく、世界の人々と共にあり、また特に近隣であるアジアの兄弟姉妹と共に生きています。

1998年に開催されたアジアシノドスを受けて発表された教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告「アジアにおける教会」に、教会の派遣の使命について、次のような指摘があります。

「教会は、聖霊の促しに従うときだけ自らの使命を果たすことができることをよく知っています。教会は、アジアの複雑な現実において、聖霊の働きの純粋なしるしと道具となつて、アジアのあらゆる異なった環境の中で、新しく効果的な方法を用いて救い主イエスをあかしするよう招く聖霊の促しを識別しなければなりません (18)」

その上で教皇ヨハネ・パウロ二世は、「アジアにおいては非常に異なった状況が複雑に絡み合っていることを深く意識し、『愛に根ざして真理を語り』つつ、教会は、聞き手への尊敬と敬愛を持って福音を告げしらせませす。(20)」と記しています。

シノドスの道を歩んでいる教会において、一番大切なことは、互いの声に耳を傾けあい、互いの違いを認識しあい、互いに支え合つて歩むことです。アジアの現実における福音宣教は、相手を屈服させ従わせるのではなく、「尊敬と敬愛を持って」互いに耳を傾けるところにあります。言葉と行いによる証しを通じて、父と子と聖霊の神のいのちの神秘に、一人でも多くの人が招き入れられるように、耳を傾けあい、支え合いながら、歩んで参りましょう。